

中国の大学における留学生の文化的受容と支援：留学生受け入れ機関を中心として

謝，緯

九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻：博士課程3年

<https://doi.org/10.15017/7374737>

出版情報：国際教育文化研究. 6, pp.57-67, 2006-06-30. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



中国の大学における留学生の文化的受容と支援

—留学生受け入れ機関を中心として—

謝 瑋

1. はじめに

本稿では日本の留学生支援に関する先行研究の検討を踏まえ、中国における大学の留学生受け入れ機関の文化的支援の具体的な内容や課題を明らかにすることを目的としている。即ち、文化的支援システムの研究に基づいて、中国の大学における留学生の文化的受容の実態を調査し、問題の所在を把握して、受け入れ機関に今後の支援方法を提言する。留学研究は高等教育研究の一領域を占めており、留学生受け入れ機関における文化的支援の研究は中国の高等教育の研究にも大きな影響を与える。また中国がアジアの主要な留学生受け入れ国として、中国の留学生教育研究はアジアや世界の留学研究に大きな貢献をすると思われる。

留学交流は国境を越える大規模な人間の移動の一つの形態とされている⁽¹⁾。近年、全世界において、欧米だけでなく、アジアでも受け入れ留学生が急増する傾向を呈している。江淵は留学生の動機や目的、言語的・文化的背景、修学の条件、経済的基盤等は様々であるが、自文化と異文化の狭間で「境界人」として苦悩しているという点においては、どの留学生も共通であることを指摘している⁽²⁾。留学生が留学先の文化をどのように受容するかは留学生受け入れ諸国が共通に抱いている課題と言えるだろう。こうした留学生の文化的受容は留学の目的を達成するためにも重要だと思われる。加えて、留学生が受け入れ国の文化を受容だけでなく、受け入れ側にも留学生の母国の文化を理解することが求められる。このような課題に直面して、中国の各大学の留学生受け入れ機関は留学生に対する文化的支援の必要性を認め始めた。

横田は「留学生支援」を問題解決型の支援と開発・予防型の支援に分けている⁽³⁾。同時に横田は「支援の主体」を提案した。即ち、留学生担当の職員、ゼミの受け入れ教員、同国の留学生（個人または組織）である。留学生支援の歴史が短い中国では、留学生の文化的受容や支援に関する研究は端緒についたばかりで、留学生受け入れ機関における文化的支援の実践や留学生の具体的な文化的受容の実態を把握する研究が今後ますます重要となつて来ている。

本研究では、まず通常の文献研究にくわえ、質問紙調査の方法を用いている。「問題解決型の支援」と「開発・予防型の支援」の支援構造に基づいて、中国の留学生受け入れ機関における支援業務を検討する。次に重点大学に在籍している留学生に対する質問紙調査の結果を通して、直接的に留学生の文化的受容の葛藤を検討することとする。留学生のさまざまな葛藤を通して、

留学生への文化的支援体制の構築を提言したいと考える。

2. 留学生受け入れ機関における留学生への文化的支援の実践

私費留学生の増加に従い、多くの重点大学では 1990 年代に入って留学生受け入れ機関を設置した。これらの留学生受け入れ機関は主に留学生に対する中国語教育を業務の重点として展開している。近年、留学生受け入れの増加や高等教育産業化の趨勢に伴い、留学生からの収入が大学財政収入の重要な位置を占めている。各大学は海外からの留学生を引きつけるために、カリキュラム、教育方法などの教育改革を行っていると同時に、留学生の生活、文化の支援について過去の「世話業務⁽⁴⁾」の消極的な対応方式を改め、積極的な支援としての開発・予防的な支援を始めている。以下は「開発・予防型の支援」とする伝統文化授業、課外活動、オリエンテーション、「問題解決型の支援」とする相談活動について検討する。

2.1 文化的支援の授業

留学生に対する授業は主に中国語授業であり、中国語授業の中で中国文化を教えることが勿論で、ここで専門な文化授業を取り上げて検討する。この授業では、京劇、太極拳、書道などの講座を行っている。それらの講座を通して、留学生を中国の伝統文化を理解させている。最もポピュラーなのは、市内の名所旧跡観光で、その他、午後に太極拳、書道、料理などの課外授業を行ったり、留学の途中で一般の中国家庭にホームステイをするプログラムを用意している大学もある。大学によって、多様な文化授業が設置されている。例えば、山東大学の中国古典哲学(孔子と儒学など)、雲南師範大学の中国将棋、中央戯劇学院の京劇メイク、西北工業大学の切絵などユニークな選択科目を用意している⁽⁵⁾。

2.2 課外活動

以上の授業に加えて、留学生受け入れ機関は見学、旅行、各種の国際交流活動を企画している。留学生は異なる国から来て、異なる社会制度と文化背景を持ち、一般的に中国の歴史、風俗習慣、社会状況に知らないのである。中国に着いてから中国社会を理解し、中国における生活を適応することが必要されている。そのため、留学生の要求によって積極的に課外活動を展開する。例えば工場見学、農村、住宅地、名所古跡、名人を訪問することなどである。近年では、各大学とも他の大学との差別化を図るため、魅力ある課外活動を企画するようになってきている。これらの活動は留学生を実際的に中国の実社会、文化に触れさせて、本格的に中国社会、文化を理解させると思われる。上海外国語大学では 1993 年から中国語スピーチコンテストを始めて、留学生が文化の理解、中国語学習の積極性を促進していると考えられる。

以上の課外活動に加えて、近年、各大学の留学生受け入れ機関はオリエンテーションと相談活動が業務の重点になっている。オリエンテーションは主として到着後に行われるものである。即ち、留学生に学内・校外の必要な情報を提供する、留学生ができるだけ早く中国の生活を適応させ、中国人とのトラブルを避けるために、留学生担当者はオリエンテーションで留学生に中国の文化などを紹介する。

2.3 オリエンテーション

このオリエンテーションも「開発・予防型の支援」であり、一つは留学生に中国文化の状況を教えて、異文化の不適応を低減すること、もう一つは文化的支援を通して、文化摩擦や利害衝突を発生しても、問題をうまく対処できるために、留学生に教育すると思われる。また、オリエンテーションの中心内容として新入留学生に気候風土、社会生活、キャンパスを紹介し、以前の留学生が抱えた経験のある住居、家族、言葉、人間関係などの問題を説明する。家族、友人から離れたばかりの留学生は、このオリエンテーションで留学生と中国人学生と交流し、ホームシックによる孤独や悩みを改善し、新たな友人関係を築いて、できるだけ幅広い中国文化理解と相互理解を作り上げている。これらのオリエンテーションを通して、留学生に様々なトラブルに対して心理的に準備させて、予防の役割を起していると思われる。この問題予防を加えて、問題が発生した際の問題への対処もとても重要である。次は問題解決のアプローチである相談活動について検討する。

2.4 相談活動

相談活動は「問題解決型の支援」として位置づけられる。白土は相談活動をアドバイジングとカウンセリングに分け、修学・生活上の実際の問題や心理的問題に対処するものであるとする。病院への付き添い、交通事故の処理、死亡時の対処など緊急事態への危機管理も含まれることを指摘している⁽⁶⁾。中国の吉林大学ではこのような相談活動として最初に中国人大学生を対象にした心理相談室を設置したが、留学生の増加に伴い、一部の留学生が心理相談室へ相談に行き始めた。カウンセラーは留学生の状況をあまり理解しておらず、十分に支援ができなかった。この状況に対処して、大学の留学生受け入れ機関の職員が相談業務を担当するようになった。これらの職員は専門のアドバイザーではなく、本格的なアドバイジングを行っていない、「世話業務」といった方がいいと思われる。相談内容は主に文化が受容できないことにより引き起こされた生活の不適応といえる。例えば、多くの留学生は言葉の障害によって、電話や乗車や買い物などの問題を引き起こした。授業が十分に理解できず、つまらないと思っている。生活、学習のプレッシャーが大きくなりながら、心理的圧迫も重くなって、孤独を感じている。これらの問題が出てから、多くの留学生は担当の職員に相談に行くが、一部の留学生は消極的に対処する。それで、職員に相談した問題は氷山の一角にすぎず、単に持ち込まれた問題を解決することだけでは十分でないと思われる。留学生問題の研究は留学生担当職員の業務の一項になっている。

現在、多くの大学は根本的に留学生の問題を解決するために、留学生問題や留学交流問題について究明している。留学生受け入れ機関の職員は、留学生の実情を把握して、整理、問題点の所在を分析する必要だと思う。その職員は実践の業務の中で経験を蓄積し、留学交流の問題を研究することに加えて、研修も重要な業務の一つだと思う。白土は留学生担当者にとって研修は、留学生交流に関する新制度の発足や法律の変更などの最新情報と専門的な技能を修得するために不可欠である⁽⁷⁾と指摘している。中国では、1989年中国高等学校外国留学生教育管理委員会(CAFSAを略称)を成立し、中国への留学生受け入れに関する政策の普及や業務改

善のための研究会を実施している中国唯一の大学担当者間のネットワーク組織である⁽⁸⁾。この非政府組織では各大学の留学生担当者は、研究会の形式を通して、留学生受け入れの方法を検討し、留学生に対する管理、支援などについて交流できる。そのため、この組織は留学生問題の解決や支援業務の展開に対して有効だと考えられる。

留学生受け入れ機関における文化的支援の実践では、大学の留学生受け入れ機関における留学生担当者の支援業務や業務展開のための研修・研究を考察した。こうした業務の展開の成果や、留学生の援助から、留学生は中国文化をどの程度受容しているかについて検討する。

3. 留学生の文化的受容の実態

留学生の急増に従い、中国政府は留学生交流の業務を重視してきた。留学交流の会議が開催されて、留学生に対する生活、文化の支援活動について討論されて、留学生支援体制が確立されている。各大学の留学生受け入れ機関における留学生担当者は、国家の留学生支援政策、指針に基づいて地域の特色を活用し、留学生を援助している。本節では留学生が中国文化を受容するか、またどの程度まで受容するかということについて考察する。

3.1 留学生の困ったこと

筆者は留学生に対する文化的支援の検討に基づいて、2003年8～9月には、中国における三つの大学に在籍している留学生331人に質問紙調査を行った。アンケート調査票は、以上の三つの大学留学生科あるいは国際交流学院の担当者を通じて、在籍している留学生に配布した。調査対象者331人のうち295人から回答を得た。回収率は89.4%である。回答者の年齢層から見ると、20～25歳が184人で、62.4%を占めており、20代が75.6%で、30歳以上の人が10.2%を占めている。

筆者は質問紙では「中国に来て一番困ったこと」という質問を行った。

「留学生の困ったこと」について、最も多い指摘から順に記載すると以下ようになる。

- ・「中国語の問題で、自由な交流ができない。」
- ・「買い物の時、よく騙される。」
- ・「買い物の時、営業員の態度が悪い。」
- ・「文化が違い、中国人と世界観、文化の交流が難しい。」
- ・「交通問題、広い道路を渡る時、信号があっても無視する車が多く、信号がない広道も多い。」
- ・「病院へ行くこと。」
- ・「中国各地の方言がわからない。」
- ・「水の問題」
- ・「環境がちょっと汚い、空気がよくない。」
- ・「公衆施設がまだよくない。」
- ・「東北地方の料理は油を大量に使い、味付けもかなり濃く、さっぱりした食事をしたい。食べられる食事が限られる。」
- ・「SARSの時も学校側は何も具体的なことを提示しない。だからインターネットだけが頼りだ

った。」などの問題があった。

以上の留学生の意見から、言語教育、文化、環境、交通、買い物、情報提供などの側面の改善が必要であると分かる。中国における社会の公衆施設はまだ十分ではない。留学生向けの施設は大学を除いて、社会ではほとんどない。また留学生に向ける広報誌がなく、留学生は進学情報や学術・生活情報や就職情報などを得にくく、インターネットしか頼るものがなく、不便を引き起こす。これらは留学生が中国の社会を適応できない原因と思われる。

3.2 中国人との交流状況

留学生の異文化理解の問題点に基づいて、先行研究を検討した。各大学は留学生への文化支援が留学生支援の重要な一つの側面になっている。筆者は以上の質問調査の結果を踏まえ、留学生支援の研究に基づいて、質問を設定し、2005年12月、2006年1月、3月に留学生に質問紙調査を行った⁽⁹⁾。調査では、北京と上海の大学を選定し、在籍している留学生400人に対して質問紙調査を実施した、本調査では246人から返答を得た、回収率61.5%である。

留学生の文化受容の状況を考察するために、筆者は『よく誰と交流しますか。』『どんな文化授業に興味がありますか。』『生活の中で感じたショックは何ですか。』『中国の社会文化に理解できないところは何ですか。』四つの問題について考察したい。まず、留学生の交流対象を通して、間接に留学生の中国文化受容の一つの側面を検討する。

多くの留学生は中国語の学習に加えて、幅広い中国理解と中国人との相互理解を留学目的の一つと考えている。留学生は直接的に中国文化を理解するために、中国人との交流が一番有益だと思う。このような考え方から、筆者は『よく誰と交流しますか。』という質問を設定した。

表1、よく交流する人 (複数回答可) 単位(人)

他国留学生	161 (65.4%)	中国人友達	65 (26.4%)
自国留学生	150 (61%)	留学生担当者	27 (11%)
中国人学生	97 (39.4%)	その他	13 (5.3%)
中国語教師	65 (26.4%)	交流がない	6 (2.4%)

【出典】2005年12月、2006年1月、3月の質問紙調査より、筆者作成

表1が示しているとおり、過半数の留学生は他国と自国の留学生と交流し、中国人と交流する人も3割を占めていることが分かった。ただ留学生担当者と交流する留学生は予想より非常に少ない。この結果について分析すると、主に留学生の生活周辺環境、異文化の阻害、国際交流教育の不足三つの原因があると思われる。

留学生は中国に來たばかりの時、ほとんど留学生の寮に下宿している。このような生活環境は留学生の友人が制限される。留学生専用の寮が留学生と自国人民との交流に対してよくない問題は中国だけではなく、日本及び欧米などの留学生受け入れ諸国にも共通の悩みになっている。オーストラリアでは留学生宿舍の『ゲトロー化』を避け、留学生と自国学生の交流を促進するために、国際会館などの宿舍に入れる場合は、自国学生と半々の割合にすることを原則にし

ている⁽¹⁰⁾。同時に、江淵は留学生が同国人と近接して暮らすことには相互扶助の点で利点もあるが、受け入れ国学生との交流を妨げるというマイナス点もあることを指摘した⁽¹¹⁾。しかし中国では中国人学生は全寮制なので、集団宿舍の形で、留学生の生活習慣に合わない。また、中国人学生と留学生の家賃も違い、学習と生活習慣の違いから、留学生と中国人学生と同じ寮になることは難しくなると考えられる。

異文化交流の阻害要因には、異文化交流自体に内在する普遍的な要因、受け入れ国の人と留学生の母国の文化差などの相互的な要因、さらに異文化交流への適応性など個別的な要因、これら幾多の要因が重層的に障害や困難さを形成していると考えられる⁽¹²⁾。留学生は中国語が障碍なので、中国人との交流が少なくなる。留学生と中国人は交流の不足によって文化上の障害の程度が大きくなる。アジアと欧米の文化差異が大きいことは勿論で、アジア諸国間でも差異が大きい。留学生と中国人は価値観、人生観が異なるので、交流の際、文化誤解を引き起こす例がとても多い。例えば、西北大学における日本人留学生寸劇事件は文化誤解の例の一つであると思われる。このような文化の障害は留学生と中国人との交流を阻害している。どのように留学生と中国人との交流を増加するかに関して、自国民に対する国際交流教育は必要だと思われる。

家族や友人から離れている留学生は、中国に来て孤立した存在であり、孤独や悩みを癒し、援助や助言をしてくれる友人が一番重要なことになる。そのため、大学や地域は留学生に学内での交流会や懇親の場、パーティーなど知り合う機会を提供することが必要とされる。中国人は初めての会う人に対して、ほとんど声をかけず、よく付き合ってから親しくなるという。大部分の留学生は最初に中国人と友達になりにくい問題を持っている。中国ではこの問題を解決するために、中国人の異文化交流能力の養成が必要になっている。現在、文化交流教育の欠如は留学生と市民の交流の障壁になって、留学生が中国人との交流機会が少ない原因になると思われる。

上述した要因によって、大学と地域の国際交流に対する支援はより重要性を増している。例えば、「授業」ではグループ学習の授業形態を採り入れるなど、異文化交流を目的とする授業も実施されることが求められる。その他、大学で留学生と中国人学生の境を越えるサークル活動を行うことは、留学生と中国人学生との交流にとって有効だと思われる。また、地域では、異文化交流に関心や興味のある市民を誘って、留学生と多彩な異文化交流活動を行うことが重要であろう。

3.3 文化授業の参加状況

次は留学生の興味を持っている文化授業について検討する。前述した留学生への文化的支援の実践から見ると、大学の留学生受け入れ機関は各種の文化授業で留学生を支援している。中国の文化的支援の検討を踏まえて、筆者は留学生の文化授業の参加状況から留学生の異文化理解を考察したい。

表 2、興味がある文化授業 (複数回答可) 単位(人)

書道 絵画	120 (48.8%)	漢方医	63 (25.6%)
楽器、音楽	91 (37%)	その他	38 (15.4%)
中華料理	68 (27.6%)	中国気功	30 (12.2%)
太極拳	67 (27.2%)	興味がない	11 (4.5%)
中国武術	64 (26%)		

【出典】2005年12月、2006年1月、3月の質問紙調査より、筆者作成

「書道、絵画」を選んだ留学生が一番多く、48.8%で、ほぼ半数に近い。以下は中国の民族楽器と伝統歌謡が37%、「中華料理」が27.6%になっている。また、「その他」に関する答えは中国茶道、中国歴史、囲碁、古代文学(例えば、孔子の儒学、詩)、中国映画などがある。このことから留学生は文化授業を通して中国伝統文化を勉強することが分かる。留学生はせっかく中国に来たので、中国の伝統文化を体験してみたい気持ちがあるのは当然であろう。大学の留学生受け入れ機関は中国の文化的特性を活用して、力を入れて多様な文化授業を開発し、中国の留学生教育と支援の特色を打ち出そうとしている。同時に多数の留学生は積極的に中国の文化を受容し、多彩な文化授業を受けることを通して、中国理解を実現しているだろう。「興味がない」と答える人が4.5%しかないが、ここに注目したい。「興味がない」と答える人は大体二種類がある。一つは子どもの時から両親とずっと中国に生活している人で、これらの文化授業を勉強したことがあるので、興味がなくなった。もう一つは特定の留学目的がない人で、このような留学生はあらゆる授業に対して興味を持ってない。現在の文化授業は主として初級レベルの留学生を対象としてより、「高級クラスにはない」という問題が指摘された。今後、留学生受け入れ機関は留学生の要望に応じて文化授業の科目を増すことだけでなく、異なるレベルの文化授業も重要な課題になっていると思われる。各大学の留学生受け入れ機関は大学と地域の特色を活用し、独自の文化的支援を展開し、留学生によりよく中国文化を理解させることが期待されている。

3.4 カルチャーショック

筆者は多方面から留学生が文化を受容できない点を収集するために、質問紙では「生活の中で感じたショック」、「中国の社会習慣に理解できないところ」という質問を行った。回答者の自由記述回答によって、中国の伝統文化面、中国の社会文化面という二つの側面に分けて分析することとする。

第一の側面として中国文化に関する見方については以下の答えがある。

- ・「多くの中国伝統文化がなくなっている、とても残念だ。」
- ・「中国の伝統儒教思想がだんだん少なくなった、とても惜しい。」
- ・「中国人は何故宗教を信仰しないか。」
- ・「中国は伝統の大晦日があるが、新年の際、雰囲気はほとんどない、理解できない。」

以上の記述を回答する留学生は、ほとんど中国伝統文化に対して深い興味を持っている人で

あろう。特に欧米からの留学生は東西方文化の差異が大きいから、完全に分からない中国伝統文化を体験するための「異文化接触」を目的として留学する人も多い。よって、これらの留学生は中国の伝統祭り、民族風俗などの伝統文化に対して関心を持っている。近年、中国社会は外来文化に大きな影響を及ぼされているので、伝統文化が少なくなっている。その一方で留学生は中国の社会に入れないので、伝統活動に参加できてない状況も存在している。この社会状況に直面して、大学の留学生受け入れ機関の職員は中国伝統文化体験を企画する活動で留学生を支援するべきではないだろうか。留学生が地域の住民と一緒に当地域の伝統活動を行うことはとても重要だと思う。

第二の側面は留学生の中国社会文化の不適応に対する自由記述である。

- ・「交通規則を守らない。」
- ・「トイレはドアがない。」
- ・「サービスが良くない」
- ・「中国の貧富の差が大きい。」
- ・「よく『分かりません』という話を聞く」
- ・「中国人は集団意識が強い。」
- ・「食品は衛生問題がある」
- ・「中国人の英語レベルが低い」
- ・「衛生問題が大きい」
- ・「空気汚染がひどい」
- ・「どこに行っても人がいっぱいだ。」
- ・「中国人は自分の感覚をあまり表さない。」
- ・「自転車がとても多い。」
- ・「中国では人口が多い、どこに行っても人も多い。」
- ・「中国人は社会ルールを守らない人が多い、私もだんだん守らなくなっている。」
- ・「中国は何で環境を保護しないか、環境汚染がだんだん厳しくなった。」
- ・「ある中国人は日本に友好的でない。」
- ・「私はアメリカ籍の中国人だが、中国に来てから、差別された。」
- ・「多くの中国人は独立に仕事する習慣がない。」
- ・「道路で車のスピードが速くて、とても怖い。」
- ・「中国語の意味が多い、外国人にとって理解できない。」
- ・「中国人の習慣を理解できない。」
- ・「中国人の考え方が理解しにくい。」
- ・「中国人の外国籍華人に対する態度が理解できない。」
- ・「中国語ができなかったら、中国における生活が難しい。中国人の思惟方式がよく分からない。」

- ・「文化背景の差異から、中国人の交流方式を理解できない。」
- ・「中国人若い人の考え方が理解できない」
- ・「完全に中国文化と伝統を受けることができない。」
- ・「価値観が違う。」
- ・「中国の社会文化を理解しにくい。」

上述の答えに基づいて、筆者はいくつかの原因があるとまとめたい。①中国社会の実態の原因が挙げられる。中国では、環境、人間素質、交通混乱、サービスが悪いなどの現象が確実に存在している。今後、社会が国際化になっていくに伴い、中国の自然環境や社会環境が次第に改善していく。社会は留学生を引きつけるために、留学生に良い生活環境を提供することが必要であると思われる。しかし、留学生は自主的に中国留学を選択し、積極的に中国の文化を受容しないと留学目的を達成することが困難になると思う。②は留学生の適応についてである。調査を受けた留学生はほとんど初めて中国に来て、中国に来る前に、中国の社会状況にあまり知らない、中国人のコミュニケーションスタイルや価値観、生活習慣に触れることはない。そのため、留学生は新しい環境に出ると、多くの場合はカルチャーショックに遭遇する。多くの留学生は自文化へのこだわりが強く、中国文化を寛容に受け入れることなく、排斥までになる。留学生は異文化に対する寛容性、柔軟性の自己調整能力が大きな問題を抱えている。留学生に中国社会を適応させるために、留学生受け入れ機関のカウンセリングが必要とされる。留学生受け入れ機関の職員には留学生に人間関係の構築、中国社会の紹介、ストレス解消などの異文化受容の発達の援助が期待されている。③は留学生の異文化受容の姿勢である。留学生は異文化体験では、留学先のマイナスのものを捉えるべきではなく、意識的に受容することが望まれると考えられる。不適応の留学生を除いて、一部分の留学生は中国文化に対して積極的な認知態度を抱いている。

とにかく、大学はこうした社会問題が教育内容を導入する必要とされている。留学生は学習を通して、予め心理準備ができ、文化のカルチャーショックが留學生活に影響することを避けるのではないだろうか。留学生はカルチャーショックの問題、留学の目的、中国生活の文化差などの問題などに基づく葛藤、不安といった共通の問題を有している。このような共通の問題を対処するためには、大学はカウンセリングを行うことが必要である。留学生担当者は留学生が持つ多様な文化・宗教的な価値観を考慮して、留学生の文化背景によって指導することが重要だと思われる。また一方で社会はどのように公衆施設を改善し、市民の素質を高め、留学生と市民の交流機会を増やし、異文化理解を促進することがより大きい課題となるのではないだろうか。

4.おわりに

中国の大学における留学生受け入れ機関では、近年、留学生に対する文化的支援が活発になっている。留学生受け入れ機関は留学生に文化を受容することを援助するために、授業で中国

の伝統文化を紹介し、課外で多彩な文化活動を企画し、専門の職員を設置してオリエンテーションと相談活動などを展開している。留学生の多様化に伴い、留学生の各種のトラブルも増加している。留学生に対する文化的支援が大学自身に制限されるのではなく、留学生受け入れ機関は教職員、地域住民、大学関係者との幅広い範囲の連携が求められている。

中国の現在の留学生への支援実態では、留学生が中国文化を受容する状況を考察した。前述した調査結果では、留学生は中国伝統文化と社会問題について関心を持っていることが明らかになった。多くの留学生は積極的に文化授業を受けているが、中国人と交流する機会が少なく、異文化理解が難しくなり、せっかく中国に留学する意味もなくなってしまう。大学側は留学生の自文化の背景に考慮して、多様な交流活動を展開し、留学生に多方面から中国社会を理解させ、中国文化を受容させようとしている。しかし留学生は中国留学のカルチャーショックに関して、社会、文化、個人の側面から様々な問題を挙げた。これらの問題を解決するために、社会環境の改善、留学生に対する異文化受容の指導、大学の相談活動の活発化が今後の課題になっていることが予想される。現在、大学の留学生受け入れ機関では留学生に中国と海外の文化の差異を正しく認識させ、文化差異によって引き起こした障害を排除し、異なる文化の衝突を解決し、文化の交流、融合を促進することが外国人留学生に対する文化支援の重要な課題である。

注

- (1) 江淵一公「在日留学生と異文化間教育」異文化間教育学会紀要編集委員会『異文化間教育 5—在日留学生と異文化間教育』アカデミア出版会、1991 年、10 頁。
- (2) 同上、5 頁。
- (3) 横田雅弘「留学生支援システムの最前線」異文化間教育学会紀要編集委員会『異文化間教育 13—留学生支援システムの最前線』アカデミア出版会、1999 年、6 頁。
- (4) 同上、13 頁。
- (5) アルク地球人ムック『中国・韓国留学事典』株式会社アルク、2002 年、30 頁。
- (6) 白土悟「異文化間教育としての留学生アドバイジング」異文化間教育学会紀要編集委員会『異文化間教育 13—留学生支援システムの最前線』アカデミア出版会、1999 年、43 頁。
- (7) 同上。
- (8) 横田雅弘『アジア太平洋諸国の留学生受け入れ政策と中国の動向』文部科学省科学研究費補助金(基盤研究 B)平成 15 年度～16 年度調査報告書(中間報告)、平成 17 年、225 頁。
- (9) 本調査は富士ゼロックス小林節太郎記念基金 2005 年度外国人留学生研究助成を受け、行った。
- (10) 江淵一公『大学国際化の研究』玉川大学出版社、1997 年、82 頁。
- (11) 同上。
- (12) 坪井健「留学生と日本人学生の交流教育」異文化間教育学会紀要編集委員会『異文化間教育 13—留学生支援システムの最前線』アカデミア出版会、1999 年、64 頁。

Foreign Students' Cultural Acceptance and Support in the Universities of China

Centering on foreign students' acceptance organizations

Wei XIE

In this paper, an analytic framework will be established, which was based on examination of the advanced researches on foreign students' support in Japan. From this point of view, the concrete contents and problems on cultural support of foreign students' acceptance organizations of the universities in China will be clarified. Based on the research of a cultural support system, the realities on the cultural acceptance of foreign students in China's universities will be investigated, the questions will be cleared up, and the future support methods will be proposed. Therefore, it is thought that the research on the cultural support in foreign students' acceptance organizations will influence the research of Chinese higher education, and also the research on foreign students' education in China will make a big contribution to the studying-abroad research both in Asia and in the world.

In the foreign students' acceptance organizations of China's universities, the cultural support for foreign students is becoming active. In order to help foreign students understand Chinese culture and then gradually accept it, the organizations introduce traditional Chinese culture in the class, organize colorful cultural activities out of class, install the specialized staff for developing the orientation and the consultation and so on. Various kinds of troubles among foreign students are also increasing with the diversity of foreign students. The cultural support for foreign students was not only restricted to the university itself, but also the foreign students' acceptance organizations are calling for the cooperation from a broad range of the school personnel, local residents, and the concerned in the universities. At present, the major problems about the cultural support for the foreign students in universities' acceptance organizations are mainly on helping foreign students understand the cultural differences between China and other countries correctly, eliminating the obstacle due to the cultural differences, resolving the cultural shock, and promoting culture exchange and fusion.